

論文審査の結果の要旨および担当者

| | | |
|------|-------|---|
| 報告番号 | ※ 甲 第 | 号 |
|------|-------|---|

氏 名 HIROZAWA Paula Yumi

論 文 題 目

The Role of Moral Character in Blaming Failure to Help
(援助行動の失敗に対する非難における行為者の道徳的性質の
役割)

論文審査担当者

主 査 名古屋大学教授 唐沢 穰

委 員 名古屋大学教授 三輪 和久

委 員 名古屋大学准教授 石井 敬子

HIROZAWA Paula Yumi 氏提出の論文「The Role of Moral Character in Blaming Failure to Help（援助行動の失敗に対する非難における行為者の道徳的性質の役割）」の目的は、援助行動などの道徳的な行為を遂行し損ねる不作為に対して、非難や責任追及が生じる心理的過程を、理論的および実証的に明らかにすることである。規範に違反する行為（以下「違反行為」）への非難や懲罰は一般に、行為と結果の間の因果関係や、行為者の意図等の心的状態を根拠として行われる。これは法の領域においても、一般人の心理的傾向においても同様であることが、従来の研究によって示されている。一方、そもそも行為が存在しない不作為においては、通常これを法によって懲罰することは難しいとされる。ところが一般人の多くは、援助の不作為に対して非難や懲罰の傾向を示す。この乖離を説明するために本研究は、作為による違反行為に対するのと同様の心理過程が、不作為についても作用する可能性を指摘し、これを計6件の社会心理学実験により検証している。

第1章では、主に作為の場合について、違反行為に対する非難や懲罰動機が成立する過程を説明した、心理学的な理論やモデルを幅広く概観している。続いてこれをもとに、不作為の場合について分析を行うための理論的枠組みを構築している。第2章では、不作為が正当化可能な状況ですら非難が生じること、そしてその基礎には、人物の不道徳性に関する推論過程と、行為の実行能力や意図、因果関係などに関する反実仮想的な推論過程が存在することを、3つの社会心理学実験によって示した。この結果は、不作為への非難が、属人的判断に強く依存することを例証するとともに、作為に対する非難と同様の根拠を知覚者が心理的に構成することを明らかにした点で、重要である。第3章では、道徳的に望ましい行為と、違反（すなわち望ましくない）行為のそれぞれにおける、作為・不作為への評価を比較対照した。一連の実験結果は、不作為の場合であっても意図性推論が人物評価に影響すること、しかもそれは違反行為について顕著であるという非対称性が見られることを明らかにした。第4章では、善意に基づく援助の不作為に焦点を絞り、ここでも人物の道徳性に関する評価が、重要な媒介変数であることを示した。以上の実証的知見をもとに第5章では、行為者の心的状態に関する推論と、人物の道徳性評価の影響という複数の過程が、不作為への非難を規定する可能性について、総合的に論考している。

本研究は、従来の心理学および法学研究において、詳細な実証的検証が行われることが少なかった、不作為への非難という問題を取り上げ、その基底にある心理過程を明らかにした挑戦的かつ独創的な研究として、評価することができる。また本研究は、法の概念と一般人の素朴理解との乖離の源泉についての知見をもとに、市民の法に対する信頼や積極的な参画を促すための方策の立案に寄与する可能性を持っており、応用的示唆にも富んでいる。審査者から指摘のあった、規範・道徳・マナーなどの諸概念間の相互関係や、文化的要因が介在する可能性、メディア等を介して共有される道徳や正義に関する言説との関連等についても、的確な理解を示す回答が得られた。

以上の理由から、本研究には十分な学術的貢献が認められる。よって、本論文の提出者 HIROZAWA Paula Yumi 氏は博士（学術）の学位を授与される資格があるものと判定した。